

氏名

星野 有美

【目的】

Schneider の一級症状は統合失調症のみならず解離性障害でも認められるため、解離性障害はしばしば統合失調症と誤診される場合がある。統合失調症と解離性障害の幻覚妄想症状の相違点を明らかにするため、我々は 2009 年 1 月から 2012 年 4 月までの間に愛知医科大学病院精神神経科を受診し幻覚妄想状態にある症例のうち解離性障害の診断を満たす統合失調症の症例、過去に薬物使用歴のある症例、脳器質疾患の既往歴のある症例を対象から除外した上で、DSM-IV-TR で解離性障害の診断基準を満たす 70 名と、対照群として DSM-IV-TR で統合失調症の診断基準を満たす 70 名を抽出し、MUPS, PSYRATS, PANSS, GAF を用いて診療録から調査した。

【方法】

MUPS の全項目, GAF スコア, PSYRATS の合計点, PANSS 陽性尺度の点数, PANSS 陰性尺度の点数を独立変数として t 検定を行い, $p > 0.1$ の変数を除外し, 残りの独立変数に対して解離性障害=0, 統合失調症=1 として尤度比による変数増加法を用いた多重ロジスティック回帰分析により調整オッズ比を産出し, $p < 0.05$ と有意差がついた項目を考察した。解析には統計解析ソフト SPSS ver.16.0 を用いた。なお本研究では匿名性保持に十分注意を払い, 研究で得られたデータは記号化した上で集計, 解析した。また MUPS の使用については開発者本人より許諾を得ている。

【結果】

結果として血統妄想, 妄想への没入度, 被害妄想, 幻聴への没入度, テレパシーを信じる, の項目が統合失調症に関連が深く, 幻聴に抵抗可能, 幻聴の内容が記憶の再生, 幻視の存在, 思考化声, 幻聴を錯覚だと理解している, 幻聴が自身の考えを反映する, の項目が解離性障害に関連が深いことが示唆された。

【結論】

本研究は詳細な幻覚妄想症状の観察により統合失調症と解離性障害とを鑑別できる可能性が示唆された。